

◆診療部

診療部長 大島茂樹

循環器科・呼吸器科・消化器科・外科・泌尿器科・脳神経外科・整形外科・心臓血管外科・内科外来の他に乳腺外来・大腸肛門外来・糖尿病外来・肝臓外来・腎不全外来・禁煙外来等の特殊外来を設け、地域連携を重視した医療を提供した。

外来延べ患者数は、40,796人(前年度 39,411人)で、1,385人増加したが、救急患者数は4,937人(前年度 5,245人)と308件減少した。

4月から呼吸器内科宮川医師を常勤に迎え、呼吸器内視鏡検査・処置や肺癌の化学療法が提供できるようになった。また入院における呼吸不全の治療もより一層充実した。外科には肝胆膵領域を専門とする田辺部長を迎え、肝胆膵領域の高難易度手術を開始した。またEST採石やERBDによる減黄等ERCPによる治療が行えるようになり、胆道疾患の急性期治療が一貫して行えるようになった。2009年度から開始した脳神経外科診療では、脳梗塞・脳出血の急性期治療から回復期リハビリまでの治療を一貫して受けられるような体制が維持できた。2011年度も脳動脈瘤のクリッピング・脳腫瘍摘出術・開頭血腫除去術・シャント等の手術を行っている。心臓血管外科ではストリッピング等の血管の手術を提供できた。整形外科は、例年通りの医療体制を維持できた。泌尿器科は非常勤体制であるが、済生会熊本病院の町田二郎副院長・白井医師・榊田医師の応援により従来通りの外来診療に加え、前立腺生検、尿管ステント留置、TUR等の手術が実施できた。

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)をはじめとする内視鏡治療も前年同様充実したものであり、全身麻酔下での高難易度ESDも行われている。治療の低侵襲化を目指し外科でも腹腔鏡下の結腸切除・胃切除・胆嚢摘出・虫垂切除等を行った。

内科領域では、従来から庄野副院長により精力的な診療がなされているが、磯部医師・心臓血管外科佐々医師にも協力してもらい更に多くの患者さんを治療できた。

また、癌化学療法、緩和医療、褥創治療、NST等の多職種で構成されるチーム医療でも、地域のニーズに応えられるように努力した。

